

# 未成年「模擬」選挙 学校ハンドブック2008

小学生・中学生も政治の  
大舞台に参加しよう!

選挙・模擬選挙が  
あそびながら学べる



模擬選挙推進ネットワーク <http://www.mogisenkyo.com>

# 目次

- 3P-4P 投票率の現状
- 5P-6P 模擬選挙の意義・目的
- 7P-8P 模擬選挙への注目
- 9P-10P 模擬選挙のあゆみと感想抄
  
- 11P 学校での実施形態
- 12P-15P 授業内での実施
- 16P 学校行事・イベントとしての実施
  
- 17P 実施のための準備
- 18P 政策について学ぶ
- 19P 様々な対応について
- 20P 注意点
- 21P-22P よくある質問集
- 23P 模擬選挙推進ネットワークによるサポート
- 24P 問い合わせ先



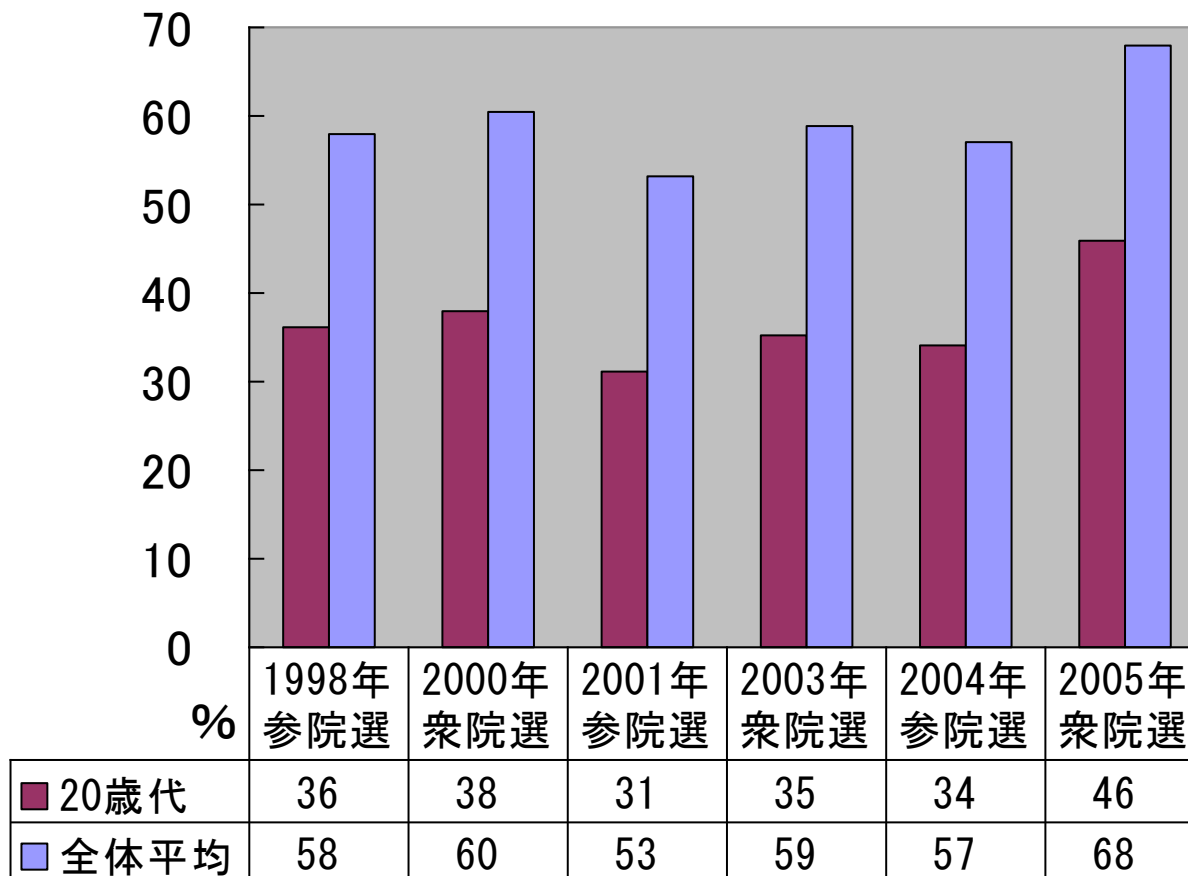
# きわめて低い20代の投票率

民主主義の危機①

未成年“模擬”選挙ハンドブック2008

「小泉人気」で若者の関心が高まった中でも、20代の投票率は他世代と比べて非常に低くなっています

## 20歳代投票率と全体平均投票率



東京都選挙管理委員会  
公表データより作成

# 関心があるのに投票に行かない？

民主主義の危機②

## 若者(18歳～24歳)の政治への関心度は高まっています

①日本の政治が「良い方向にすすむ」という20歳代の回答が、98年の39%から81%へ倍増。(読売新聞の世論調査、2001年6月)

②『政治に対して非常に関心がある・まあ関心がある』が、6年前(1998年)の37.2%から04年では46.7%へ上昇。(内閣府「第7回世界青少年意識調査」2004年1月)

## 学校・社会にも責任がありませんか？

高校生意識調査(武蔵大学、2001年)によれば、「20歳になった時に選挙に行く」と答えた高校生はわずか33%、「どちらかと言えば行く」を入れても56%。高一から高三になるにつれて、この比率が低下します。

政治に関心があるのに投票に行かない若者がいるのは、今の教育にも責任がありませんか？ 政治や政治家を身近に感じられる仕組みが学校や社会の中にありますか？

身近に感じる事がないと不祥事が起きるたびに政治や政治家に対して不信感が増え、政治や選挙への参加意欲が下がるのです。

参加意欲の低い、未来の有権者を育てる必要があります

# 小中高生も政治に参加できる

模擬選挙の意義・目的

小学生・中学生・高校生は未来の有権者です。大人と同様、日本の未来に関心を持っています。試しに、政治の大イベントである選挙にさせてみましょう。

## ◆未成年「模擬」選挙とは？

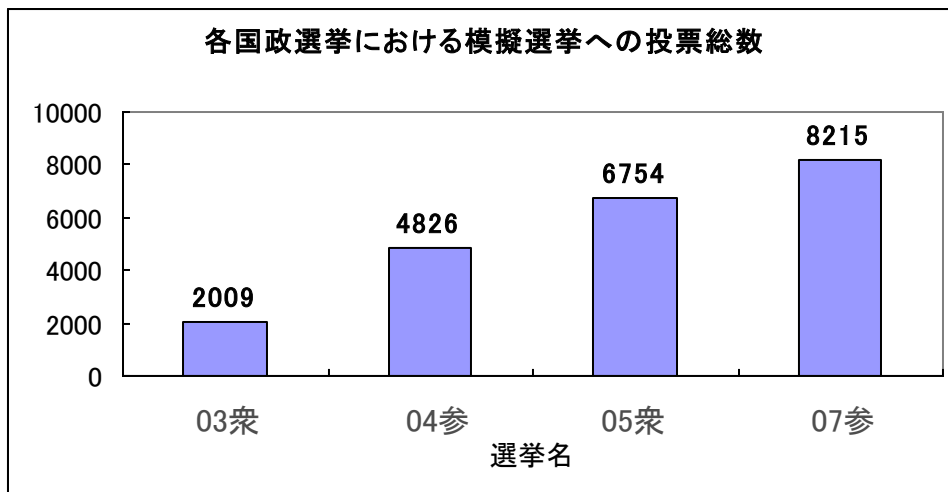
小中高生に本物の選挙に対して投票してもらいます。参議院選挙であれば、立候補者や政党に投票します。本物と違うのは投票日と開票。各学校の投票結果を集めて全国集計して、未成年の意思としてマスコミに発表します。

小中高生はドキドキしながら投票します。大人と同じ、一国民の気分になれるのです。

## ◆参加急増の未成年「模擬」選挙

まだ歴史の浅いイベントですが、模擬選挙の参加校や投票数は急増です。

あなたの学校でも参加しませんか。



▲本物の投票箱に投票する高校生

@岩槻高校(04参院選)

# 政治を体感して興味を深め、 選び方を学んで投票率も上がる

模擬選挙の意義・目的

## ◆未成年「模擬」選挙4つのメリット

生徒が楽しむだけでなく、大きな波及効果があります。

### 1: 政治への興味を深めるきっかけ

マニフェストや政策を調べるうちに、国や地域の政治について考えるきっかけとなり、現実政治の理解を深める生きた教材となります。

### 2: 投票で民主主義や政治を体感

実際に一人に決めて投票するのは難しくて大変。だからこそ、国民としての役割を実感します。よりよき国民、参加する市民としての意識を高めます。

### 3: 意志決定を学んで、政治家への関心が深まる

自分は何を大切にし、どう政治を変えたいのか、生徒自身の身近な視点や問題点を明確化し、どう意思決定するのかを学びます。政党や政治家の実態が見えて関心が持てるようになります。

### 4: 将来的な投票率増加と家族地域への増加効果

若者の低投票率は政治不信の現れで民主主義を形骸化させます。模擬選挙で現実の選挙の重要性を知れば、若年層の投票率向上に役立ちます。家庭や地域で若者が選挙について話をするすることで、家庭や地域でも投票率を上げる効果が期待できます。



投票する小学生(04参院選)

@六本木“模擬”投票所▲



# 年々高まるマスコミからの注目度

(2005年衆議院議員総選挙時における主なメディア掲載)

取材された記事・番組

## ○新聞

- ・北海道新聞「未成年者も衆院選に参加しよう ファクスなど使いNPOが模擬選挙」(2005年8月20日)
  - 「05衆院選道内の動き 道内高校生らも模擬選挙に投票」(2005年9月7日)
  - 「音更高、模擬投票を中止「高校生は早い」父母の苦情心配」(2005年9月10日)
- ・東京新聞「模擬選挙の若者、社会人として忙しくても 流されず一票」(2005年8月23日)
- ・日本経済新聞「NPOの未成年者向け衆院選模擬投票へ参加増える」(2005年8月26日 夕刊)
  - 「改革は進むか 05衆院選5」(2005年9月3日)
- ・朝日新聞「窓～論説委員室から」(2005年9月3日 夕刊)
  - 「中・高 広がる模擬投票 03年衆議院選7校、今回32校」(2005年9月11日)
  - 「子どもの社会参加促す 一方で政治教育タブー視も」(2005年9月11日)
- ・毎日新聞「特集WORLD:’05衆院選 渋谷 若者の街に見た「切実」」(2005年9月5日 夕刊)
  - 「中高生の模擬投票が急増 ウェブで政治論議」(2005年9月11日)
- ・読売新聞「10代の模擬衆院選 「投票率」は上々」(2005年9月3日 都内版)
  - 「模擬選挙に備え勉強 セントヨゼフ女子学園」(2005年9月3日 三重県版)
  - 「高校生が 模擬選挙 盛岡一高」(2005年9月9日 岩手版)
- ・静岡新聞「高校生が教室で“1票” 焦点は年金や子育て支援 常葉高 政策調べ模擬投票」(2005年9月8日)

## ○テレビ

- ・フジテレビ系列「ニュースJAPAN」「未来の有権者たちは・・・」(2005年9月9日、9月15日)
- ・TBSテレビ「イブニング・ファイブ」(2005年9月12日)

## ○ラジオ(FM)

- ・Tokyo FM「FLOWERS～TOKYO UPDATE」(2005年8月31日)
- ・Nack 5「NACK AFTER 5」(2005年9月1日)

## ○インターネット

- ・インターネット新聞JanJan
- ・新聞社ウェブサイト(上記各記事)

テレビ取材

◎模擬総選挙2005in渋谷



# 模擬選挙のあゆみ

※2008年7月時点までの、模擬選挙推進ネットワークが協力、呼びかけした模擬選挙のみ  
(NPO法人Rights 内で実施していた当時の実績も含む)

模擬選挙の歴史

未成年“模擬”選挙ハンドブック2008

2002年に呼びかけを開始し、2008年7月までに16の選挙で模擬選挙は実施されてきました。(統一地方選挙は全国に呼びかけを行ったため1つの選挙と数えています)

選挙の種類	実施した選挙	過去の事例
衆議院議員総選挙	2003年、2005年	<ul style="list-style-type: none"><li>・全国から参加</li><li>・選挙区と比例区(政党別)の投票を呼びかけ。(結果の公表は比例区のみ)</li><li>・期間中のニュース番組での全国放送により、Web投票の参加が急増</li></ul>
参議院議員選挙	2004年、2007年	<ul style="list-style-type: none"><li>・全国から参加。選挙区と比例区の投票を呼びかけ。(結果の公表は比例区のみ)</li><li>・政党本部を中高生世代が訪問し、国会議員と意見交換する「政党本部探検ツアー」を実施</li></ul>
都道府県知事選挙	千葉県(05)、長野県(06)、和歌山県(06)など	<ul style="list-style-type: none"><li>・県内複数個所での投票呼びかけ</li><li>・合同個人演説会の会場出口で模擬選挙を実施</li><li>・県内に支局を有するマスコミ5社から「名義後援」をいただいた</li></ul>
市区町村長選挙	町田市(02年、06年)、多摩市(02年、06年)、さいたま市(05)、松戸市(06)など	<ul style="list-style-type: none"><li>・最初に呼びかけが行われた模擬選挙で、同一市内でも継続的に実施されている</li><li>・「選挙事務所探検隊」「10代による公開質問状」などを実施</li><li>・有志が行っている「公開討論会」「選挙に行こうセール」との連携</li></ul>
都道府県議会議員選挙	東京都(05)など	<ul style="list-style-type: none"><li>・都内の学校が参加</li><li>・選挙管理委員会から投票箱や選挙公報の提供を受ける</li><li>・区部および市部で街頭投票を行う</li></ul>
市区町村議会議員選挙	松戸市(06)など	<ul style="list-style-type: none"><li>・数値比較方式を採用した全候補者アンケートを実施</li><li>・日本インターネット新聞社JANJANの全国政治家データベース『ザ・選挙』と連携</li><li>・「選挙に行こうセール」と連携</li></ul>

# 「投票権が早く欲しい」「投票する責任を痛感して緊張」 「しっかりと投票した。もっと増えてほしい」

模擬選挙参加者の感想抄

## 模擬選挙における未来の有権者の感想と、参加した先生方の思い



- ・日本は無駄な所で金を使いすぎていると思う。外国に金をあげる前に日本のことを考えてほしいと思った。早く投票権がほしいです。八年後はどうなってるだろう。(03総選挙、12歳)
- ・投票するには責任が必要だとわかり、緊張した。(03総選挙、中学3年)
- ・法律では、20歳以上しか投票出来ないし、20歳以下は意見も聞いてもらえないから、こういう投票というのは、とてもいいと思う。(05総選挙、13歳)
- ・なぜ学校で選挙の仕方、投票の仕方を学ばないのか不思議です。何も基礎知識無しにいきなり投票しろと言われても誰に投票したらいいのか分かりません。今回、模擬投票をしてみてもわからないことがすごくたくさん出てきました。選挙権を持つ前にこのようにして経験することができたのはとてもよかったですと思います。(04参院選、15歳)
- ・生徒には政策、公約をよく考慮して投票するように言いました。全員とは言いませんが、ある程度はしっかりと投票してくれたと思います。前回よりも参加校が増え、この試みもだいぶ知名度が高まってきたと思います。また新聞などでも模擬選挙についてまだまだ理解が進んでおらず、実施できなかった学校があるとも聞いております。いろいろと課題もありますが、次回は参加校ももっと増えて欲しいと思いますし、このような試みがすべての学校で行われる日がくると思っています。(東海大付属第4高校・工藤先生)

▲ 上: 東京都多摩市長選挙ユース模擬投票2002、中・下: ユース”模擬”総選挙2003(中: ぎふ、下: 六本木模擬投票所)

# さまざまな学校での実施形態

実施パターン

大切なのは生徒が自分で考えて投票すること。模擬選挙推進ネットワークからはポスターやマニフェストなど盛り上げグッズを送ります。あとは、開票結果を連絡していただくだけです。

## A. 教室の中で、授業時間内で投票

社会科のみならず、総合学習や情報、英語、国語など、生徒への呼びかけと投票時間さえとれば参加できます。投票用紙さえつくれば最低限のことが実施できます。

## B. 教室の外で、昼休み・放課後に投票

昼休み時間や放課後に、社会科教室や体育館、昇降口などの模擬投票所で投票を行います。受付を手伝ってくれる生徒が生徒会などから出てくれば実施できます。

## C. プリントを配布して、校外でのネット投票などを呼びかける

模擬選挙推進ネットワークや地域の実施団体が作成したチラシや自作のプリントを配布し、Web・FAX・郵送などの投票を呼びかけます。

## ◆実施上の留意点

- ・公職選挙法第138条の3「人気投票の公表の禁止」に留意し、集計結果は本選挙の票数が確定するまで一切公表しない。
- ・ポスターやマニフェストは学内だけで見られるようにして、実際の選挙への関与・影響がないように注意する。
- ・政治的公正性、中立性に留意し、学内の選挙運動など特定の政党や候補者に有利な言動がないように注意する。



ユース“模擬”総選挙2003▲

(都立武蔵高校)

# 模擬選挙のための授業プラン

授業内容

## 授業で模擬選挙を呼びかける(社会科・総合的学習など)

未成年“模擬”選挙ハンドブック2008

<p>事前指導</p> <p>(時間をとれる範囲で内容を選ぶ)</p>	<p>①国会の仕組みと参議院議員選挙の内容を確認</p> <p>②主要政党の名前と党首、勢力や考え方を資料集で確認</p> <p>③今年の選挙の状況(国会勢力など)と、模擬選挙の意義と目的を説明</p> <p>④選挙争点の概要を説明し、何をどう調べて決めるかを指示</p> <p>⑤模擬投票を行う時間と場所を伝達</p> <p>※生徒への課題の例</p> <p>例1:選挙関連の新聞記事を持参させ、授業の中で政党別に政策をまとめる</p> <p>例2:グループごとに各政党の政策を発表し、分野ごとに政策を比較する</p> <p>例3:各自で政党別に政策をまとめて課題レポートを書く</p> <p>(全分野を調べるのではなく、個々人の争点を中心にまとめる方法もある)</p>
<p>** 模擬投票(授業時間内、昼休み・放課後、ネット投票) **</p> <p>選挙公報や政党ポスターを準備し、本物に似たブースや用紙を使えるほどいい</p>	
<p>事後指導</p>	<p>①実際の選挙終了後、模擬選挙の校内結果と全国集計との違いや実際選挙の地区結果とを違いを確認する</p> <p>②模擬選挙に関連しての感想意見や選挙アンケート(自分の争点や投票理由、結果への感想など)を書く、できれば意見交換する</p>

# 授業で政策を調べる実践例

授業実践例①

未成年“模擬”選挙ハンドブック2008

○新潟市立五十嵐中学校(後藤先生) ～調べ学習を丁寧に行って投票

《2003年総選挙》 全8時間

- 1時限:生徒の政治意識に関する実態調査①
- 2時限:衆議院議員選挙のしくみ(選挙の問題点、一票の重み、18歳選挙権)
- 3時限:政党の意義と働き(立候補予定者の顔ぶれ、各政党と党首)
- 4時限:各政党のマニフェストの調査
- 5時限:選挙報道を見る(各政党の第一声、地元候補者の訴え)
- 6時限:模擬投票の注意&投票
- 7時限:模擬投票の結果発表&実際の選挙結果との比較
- 8時限:生徒の政治意識に関する実態調査②(模擬選挙を終えて)



▲選挙公報を見る高校生(03年東京都知事選挙)

@都立武蔵高校

○立命館宇治高校(杉浦真理先生) ～候補者や政策を確認して投票

《2003総選挙》 全2時間

[事前指導]

- 1時限:新聞掲載の候補者アンケートの政党名を隠して予想してもらい、インターネットを使って調べる
- 2時限:年金、財政赤字、雇用対策など若年層に影響のある課題を説明

[投票] 授業時間内に実施(投票率は100%) ※棄権を認めてもよい

《2004参院選》 全2時間

[事前指導]

- 1時限:「政党本部探検ツアー」に参加するための質問を作成(「ツアー」に10名参加しインタビュー)
- 2時限:政党本部探検ツアーを踏まえて、各政党別に政策を発表

# 授業で政策を調べない実践例

授業実践例②

未成年“模擬”選挙ハンドブック2008

○都立武蔵高校(松田先生) ～授業で呼びかけて、各自が調べて投票

《2003総選挙》

- ・授業で選挙制度の説明
- ・公示日以降、新聞の選挙報道特集などを各クラスに張り出す
- ・棄権する自由があり、授業の成績とはまったく関係ないことを伝える
- ・保護者や家族がどんな風に投票しているかを聞いてくるようすすめた

[投票]

- ・社会科教室で昼休み・放課後に実施 ※投票率は57%(高校3年生)

[事後指導]

- ・選挙後の授業で、実際の選挙結果との比較を行う



○芝浦工業大学柏中学高校(杉浦正和先生)～生徒会が投票を呼びかけ

《2003年総選挙》 《2004年参院選》 《2005年総選挙》

[事前指導]

- ・衆議院の解散時の状況説明を高校1年生の授業で実施(03年)
- ・選挙説明と各党党首第一声をまとめたプリント(社会科通信)を全校配布
- ・争点や中盤情勢説明と各党政策一覧のプリント(社会科通信)を全校配布

[投票] 生徒昇降口で昼休み及び放課後に実施

(投票率 03年:56% / 04年:56% / 05年:70%)

[事前指導]

- ・模擬投票と実際の選挙結果のプリント(社会科通信)を全校配布



上:ユース“模擬”総選挙2003 @芝浦工大柏中学高校▲

下:未成年「模擬」参院選2004@芝浦工大柏中学高校

# コンパクトな授業実践例

授業実践例③

未成年“模擬”選挙ハンドブック2008

## ○匿名参加校

### 《2004参院選》 全3時限

#### [事前指導と投票]

- 1時限: ポリティカル・ビンゴ(各政党の党首や、選挙の日程、議員定数などの16の設問の答えを、4×4のビンゴシートに回答させる)
- 2時限: 新聞ワークシート(選挙関連の新聞記事を、政党別に政策をまとめる)  
保護者や家族がどんな風に投票しているかを聞いてくるようすすめた
- 3時限: ワークシートの確認 & 投票

#### [事後指導]

- ・実際の選挙結果との比較を行う

### 《2005都議選》 全2時間

#### [事前指導と投票]

- 1時限: 都議選に関する新聞記事の配布と都議会を紹介するビデオ(15分)の視聴
- 2時限: 都議選の背景の説明 & 投票

#### [事後指導]

- ・実際の選挙結果との比較を行う



未成年「模擬」総選挙2005 @玉川学園高等部▲

# 生徒会や有志が呼びかける模擬選挙

学校行事

## 学校の行事・イベントとして呼びかける

事前準備

- ①先生・生徒に協力を要請し、学校や生徒会から実施の承認を受ける
- ②生徒が最も投票しやすい時間と場所を決めて承認を得る
- ③参議院議員選挙についての説明と、模擬選挙の実施内容の説明を全校集会やプリント配布などを活用して行う
- ④社会科授業での説明や先生からの呼びかけをしてもらうように、多くの先生に依頼する
- ⑤呼びかけポスターや選挙公報ほ政党ポスターなどを掲示する
- ⑥投票日当日は、呼びかけのチラシや投票用紙を配布する
- ⑦生徒会や有志から多くの生徒を集めて、投票の呼びかけと受付を行う

**\*\*投票(昼休み・放課後、ネット投票)\*\***

未成年模擬選挙のノボリや本物の投票箱など使うと、雰囲気盛り上がります！

集計  
結果公表

- ①開票・集計をした後、実際の選挙後まで情報がもれないようにする
- ②実際の選挙終了後、模擬選挙の校内結果と全国集計などを説明し、模擬選挙協力に感謝するチラシを関係者に配布・掲示する

# 実施のための準備

準備物

## 1: 投票グッズ(投票用紙、投票箱)の作成

### (1)投票用紙

- ①各学校や地域で準備する。(本物に近いもの／感想欄付などオリジナルなもの)
- ②模擬選挙推進ネットワークが準備したものを使う。(性別、年齢、選挙区名、候補者・政党名記入欄、投票した理由、感想)
- ③模擬選挙推進ネットワークが準備したものにアレンジを加える。  
→ウェブサイトからダウンロードできます。

### (2)投票箱

- ①各学校や地域で、ダンボールなどを使って作成する。
- ②選挙管理委員会から借りる。  
→事前に選挙管理委員会に問い合わせてください。

## 2: その他の準備や動き

- ・マニフェストや政党ポスターを掲示する。  
→事前に模擬選挙推進ネットワークに問い合わせてください。
- ・選挙管理委員会から啓発グッズや選挙公法を取り寄せる。
- ・選挙情報を入手できるHPや公開討論会(後述)を紹介する。
- ・関連する新聞記事を掲示する。
- ・録画した政見放送を流す。

候補者氏名 <small>こうほしやしめい</small>	平成 年 月 日 執行
	選挙投票
	(注意) 一 候補者の氏名は、欄内に一人書いて下さい。 二 候補者でない者の氏名は、書かないで下さい。

実際の選挙で使われる投票用紙▲

# 政策について学ぶ

情報などの入手方法

## 1: ウェブサイトを活用

- ・全国会議員の情報(経歴、政策、考え方等)—構想日本
- ・各政党の政策比較サイト(大学生が作成)—「政論プロジェクト」
- ・公開討論会を全国各地でサポート—リンカーン・フォーラム
- ・選挙情報専門サイト—Election.
- ・総務省
- ・明るい選挙推進協会
- ・東京都選挙管理委員会

<http://db.kosonippon.org/>  
<http://seiron.org/>  
<http://www.touronkai.com/>  
<http://www.election.co.jp/>  
<http://www.soumu.go.jp/>  
<http://www.akaruisenkyo.or.jp/>  
<http://www.senkyo.metro.tokyo.jp/>

## 2: オプション企画の活用

- ・10代による公開質問状  
10代に各政党に対して聞きたいことをあげてもらい、数テーマ程度に絞ったものを各政党や立候補予定者宛に送付し、回答をウェブなどを通じて公開します。
- ・10代による政党本部/選挙事務所訪問  
10代が各政党本部や候補者の選挙事務所を訪ね、党首・幹事長・政調会長などと意見交換を行なう。訪問模様はウェブなどを通じて公開します。
- ・公開討論会/合同個人演説会  
各選挙区内で行なわれる、主要候補者を招いた公開討論会に参加する。事前に主催者と交渉し、「未成年者席」を確保してもらうことが可能です。



政党本部探検ツアー(参院選04)@自民党本部▲

# 選挙管理委員会等と協力するには

様々な対応について

## (1) 選挙管理委員会

模擬選挙に対して否定的な見解を持つ選管はありますが、昨今の低投票率への危惧から、最近では模擬選挙に対して協力的になってきています。

[連携例]

- ・選挙啓発グッズ、選挙公報の提供

- 都立武蔵高校(03総選挙、04参院選)、都立板橋高校(05都議選)、玉川学園高等部(05都議選)

- ・投票箱の貸し出し

- 新潟市立五十嵐中学校(03総選挙)、埼玉県立岩槻高校(04参院選)、都立板橋高校(05都議選)、玉川学園高等部(05都議選、06町田市長選)

※選管に連絡を取る必要がある場合は、模擬選挙の意義(投票率の向上など)や公平・中立に配慮することをお伝えください

## (2) 管理職・教育委員会・保護者・地域

- ・模擬選挙の意義や公平・中立に気をつけることを説明してください。

- ・保護者に対しては教育の一環であることも説明ください。

## (3) マスコミ

マスコミから学校へ取材依頼があった場合、管理職(校長、教頭など)にまず会っていただくことをお願いしてください。

# 中立の立場を守るために

最大の注意点

## (1)政治的中立性の確保

- ・特定の政党を支持、あるいは批判することを目的に模擬選挙を実施するのではなく、教育の一環として実施することを確認し、学校や団体内で事前に徹底してください。
- ・「模擬選挙実施による意義・目的」を確認してください。
- ・各政党の政策などを教師が説明する際は、公正・中立な立場で行ってください  
※政策に対して詳しくコメントする場合は、模擬選挙実施後に説明を行う方が無難です。  
※マスコミ報道などを活用して、客観的で公平な資料を作成することをこころがけてください。  
例えば、模擬選挙の投票結果が野党寄りになったとしても、「マスコミが政権交代をあおっていたから」「与党批判の報道が目立ったから」などと説明できます。
- ・生徒がポスターを破ったりすると、実際の選挙では犯罪(公職選挙法違反)になると注意してください。

## (2)公職選挙法の遵守(特に第138条の3「人気投票の公表の禁止」)

(人気投票の公表の禁止)

第138条の3 何人も、選挙に関し、公職に就くべき者(衆議院比例代表選出議員の選挙にあつては政党その他の政治団体に係る公職に就くべき者又はその数、参議院比例代表選出議員の選挙にあつては政党その他の政治団体に係る公職に就くべき者又はその数若しくは公職に就くべき順位)を予想する人気投票の経過又は結果を公表してはならない。

※模擬選挙の投票結果を、実際の選挙結果が公表されるまで公表しなければ、公職選挙法に抵触しません。(2006年6月の埼玉県議会で確認済み)

※模擬選挙の開票・集計を事前に教職員が行なうのは問題ありませんが、その結果は、実際の選挙結果が公表されるまでは外部に口外しないでください。

# よくある質問( i )

Q & A ①

## Q1. 各党・候補者の政策比較をどのように行えばいいのでしょうか？

A1. 政策比較をする際、注意すべきことは、客観性・公平性・中立性への配慮です。具体的な方法としては、以下のようなものがあります。(授業実践例も読んでください。)

- ①新聞記事の政策比較表や党首第一声などを掲示・配布
- ②選挙公報や公約集(マニフェストなど)を掲示・配布  
選挙公報については選挙管理委員会に問い合わせてください。
- ③各選挙区で実施されている公開討論会へ参加呼びかけ  
実施されていない選挙区もありますので、リンカーン・フォーラム(「投票するにあたって必要となる情報などの入手方法」参照)のホームページで確認してください。
- ④政策比較サイト(政論プロジェクトなど)を紹介・提示

※各政党の政策比較などを行う際は、教師の主観が入ったと受け止められないように、各政党・立候補予定者のマニフェストやホームページ、新聞記事などを使うのがベストです。

## Q2. 模擬選挙を実施する際、特に気をつけねばならないことは何ですか？

A2. 中立性と結果公表の仕方に注意してください。

- ①政治的中立性を守ってください。
- ②実際の選挙の結果が公表されるまでは、たとえ模擬選挙の開票作業を終えていたとしても模擬選挙の結果を公表しないで下さい。

実際の選挙結果が公表される前に模擬選挙の結果を公表すると、公職選挙法違反となります。

# よくある質問( ii )

Q & A ②

## Q3. 管理職や保護者をどう説得したらよいでしょうか？

A3. 意義や中立性、ネット投票などを説明して、粘り強く話し合ってください。

- ①民主主義を体感するなど、模擬選挙の教育的意義が非常に大きいこと(「意義や目的」参照)
- ②政治的な運動に関わるのではなく、政治的中立性に十分配慮の上、実施すること
- ③学校内の結果を広く公表しないことも可能、また授業外でネット投票への参加も可能であること

## Q4. 生徒にどのような説明や指示が必要ですか？

A4. 成績のためでないことや事前調べ、自己決定について説明してください。

- ①投票行為そのものは成績に関係しないこと
- ②棄権や白紙投票をすることもできること
- ③投票前には新聞・テレビなどでいろいろな主張や政策を調べて、自分をもっともよいと思った候補者や政党を選ぶこと。マニフェストを読んだり、政党のウェブサイトを見たり、地域の公開討論会への参加するなど、できるだけ多くの情報を集める努力が大切であること
- ④友だちや家族と模擬選挙についてよく話をして、最後に自分の意思で決めること

## Q5. 実際の選挙にどこまで近づければいいですか？

A5. 以下の例を参考にして、それぞれの学校の実情や授業内容に応じた形で実施してください。

- ①学校の選挙区と異なる選挙区に住む生徒がいる場合(国政選挙)  
→学校の選挙区に統一(同じ形で調べ学習が可能) または、各生徒の選挙区ごとに実施
- ②模擬選挙を実施する選挙区に住んでいない生徒がいる場合(地方選挙/国政選挙の補欠選挙)  
→選ぶ練習として、住所に関係なく学校が所在する選挙区での投票を認める
- ③受付や投票のやり方  
→投票者確認や投票用紙、ブース、立会人などは、無理でない範囲で実際に近づけられればよい。

# 模擬選挙推進ネットワークはサポートします

## 1. 専用ウェブサイトで、模擬選挙を行う上での情報を提供

- ・模擬選挙実施に伴う実施上のノウハウ紹介や相談  
→模擬選挙の実施経験のある先生の紹介ができます。  
→全国の模擬選挙実施の先生と情報交換をできるメーリングリストがあります。

<http://groups.yahoo.co.jp/group/mogitouhyou/>

- ・10代による「政党本部探検ツアー」「公開質問状」などのお知らせ  
→生徒から、政党・議員への質問なども受け付けます。
- ・ウェブ投票  
→校内実施が難しい場合は、ウェブからの投票呼びかけをすることができます。
- ・全国の模擬選挙結果集計  
→未来の有権者の意思を確認できます。

## 2. 模擬選挙実施に関するグッズ(各政党ポスター、マニフェストなど)の学校への配付

- ・各政党への協力要請をまとめて行ないます。送料に関してはご負担をお願いします。
- ※選挙管理委員会から投票箱などを借用する手配は、学校側で行ってください。

## 3. 模擬選挙実施に関するマスコミへのプレスリリース対応

- ・各種メディアへのプレスリリースを行います。
- ・取材を受けるかどうかは、学校側で判断してください。  
(模擬選挙推進ネットワークから、事前に、取材に応じる意思があるかどうかの確認を必ず行います)

# プレスリリース・賛同・協力・問合せ先

## プレスリリース(順不同)

- ・フジテレビ系「ニュースJAPAN」
- ・TBS「イブニング・ファイブ」
- ・J-WAVE (FM)
- ・東京新聞
- ・朝日新聞
- ・産経新聞
- ・読売新聞
- ・日本経済新聞
- ・毎日新聞
- ・北海道新聞
- ・千葉日報
- ・共同通信
- ・時事通信
- ・タウンニュース
- ・JanJan など

**賛同** 選挙権年齢の引き下げを求める国会議員懇談会  
(自民・民主・公明・共産・社民各党の超党派の国会議員が参加)

**協力** 政策シンクタンク・構想日本 / Seiron / G-net / 社団法人日本青年会議所 ほか

<呼びかけ・お問合せ> 不明な点はお気軽にご連絡・ご相談下さい

## 模擬選挙推進ネットワーク

〒194-0032 東京都町田市本町田939-9

TEL:090-6025-9614(代表・山崎), 090-1991-7458(事務局長・林)

FAX:042-720-8856

E-mail:y-tap@leaf.ocn.ne.jp(代表・山崎), jza04643@nifty.ne.jp(事務局長・林)

模擬選挙ブログ <http://www.mogisenkyo.com/>

※模擬選挙推進ネットワークは、これまで特定非営利活動法人Rightsが「未成年“模擬”選挙」として取り組んできた事業を独立して2006年12月に設立された団体です。「公平・中立・公正」を保つとともに 資金面・運営面などRightsから完全に独立しています。

※模擬選挙推進ネットワークは、特定の政党・宗教団体の影響下にはありません。